

## 日中国際結婚に関する研究

王 寧 霞

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科社会医学系専攻  
(原稿受付日 平成16年11月18日)

## Research on Japanese-Chinese International Marriage

WANG Nin Xia

Department of Social Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences,  
Kagoshima University, Kagoshima 890-8520, Japan

### Abstract

With the rapidly increasing trend of inter-marriages between Japanese and Chinese-born spouses, assessment of the impact of this international marriage on the partner's level of adjustment is becoming a critical issue. In this study, the effect of the marriage with cross-cultural background on the degree of satisfaction and happiness of 50 volunteers was investigated. The problem was explored in terms of the adjustment level to cross-cultural marriage, marriage satisfaction rating, and living support system. The results showed that women in cities have higher satisfaction rating and level of adjustment than the women in rural areas, although the women in rural areas have better living support system than those living in cities. The results also revealed that in cities the men have higher satisfaction rating and level of adjustment and better living support system than women. The relationship between the living support system and the satisfaction rating or the level of adjustment was not statistically significant. However, a correlation between the satisfaction rating and the level of adjustment was obtained with a correlation coefficient of  $r = -0.855$ ,  $p < 0.01$ .

**Key words:** cross-cultural marriage, satisfaction rating of international marriage, adjustment status, support necessity

### 緒 言

「社会の国際化」「家族の多様化」という言葉をよく聞くが、国際交流の進んでいる日本社会では、外国人たちと付き合う機会が増え、必然的に結婚にまでいたる国際結婚の件数が増えている<sup>1)</sup>。

日本の厚生労働省の統計資料によると<sup>2)</sup>、2001年に日本人男性と国際結婚した外国人女性31,972人のうち、中国人は13,936人で約43.6%を占め、2番目のフィリピン人の7,160人を大きく引き離している。中国人花嫁は1997年にフィリピン人花嫁を上回って以来、最多を維持している。結婚した相手の国のベスト3を上げると、日本人男性の場合は、中国31.7%、フィリピン28.9%、韓国21.5%の順で、日本女性の場合は、韓国36.4%、アメリカ18.7%、中国11.3%となっている。そこで、本研究で

は、特に、日中国際結婚について取り上げて、検討することにした。

日本では一部の男性にとって結婚がますます難しくなる一方で、中国人女性と結婚する日本人男性が増え続けている<sup>1)</sup>。自国同士の結婚でも夫婦関係を維持することは難しいのに、国際結婚になると価値観も様々なので、一層難しいと思われる。

日本の厚生労働省の最新統計資料によると<sup>4)</sup>、バブル経済の破綻以降、日本では日中の国際結婚の中で、離婚率が上昇しつつある。1992年から2001年までの9年間に(1993年は未統計、表1参照)、日本では、日中の国際結婚は70,650件あった。しかし、離婚件数は21,005件あり、離婚率は29%という高い数字に達し、日中の国際結婚の難しさを示している。

日中の国際結婚が急増しているが、離婚率も上昇している<sup>2)</sup>、日中の国際結婚には何か重大な問題がある

表1. 日中の国際結婚の離婚率(件)

離婚率(件) \ 年	1992	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
妻は日本人, 夫は中国人(件)	148	190	198	203	237	286	320	369	397
全部の国際結婚離婚率の中で占める比率	9.6	10.9	10.8	10.6	11.5	11.7	12.6	13.4	13.3
妻は中国人, 夫は日本人(件)	1163	1323	1486	1462	1901	2318	2476	2918	3610
全部の国際結婚離婚率の中で占める比率	18.8	22.1	24.2	23.7	26.9	29.5	29.1	30.4	33.8

(厚生労働省. 夫妻の国籍別にみた離婚件数の年次推移<sup>9)</sup>より引用)

と思われる。

そこで, 本研究の目的は, 文化的背景が異なる者同士の日中国際結婚についての理解を深めるために, 日本に在籍する日中国際結婚の中国人側の国際結婚生活に対して, 彼らの国際結婚生活の満足度, 適応度及びサポートの必要度を中心に, その実態を明らかにすることである。

## 調査方法

本研究は, 十分なインフォームドコンセントの下に行なわれた。対象者は本研究の説明文書の内容について, 十分な説明を受け, その内容を理解した上で, 自由意志により本研究に参加することに同意した。

### 1) 調査対象

2002年7月から8月にかけて, 日本全国における日中国際結婚をした中国人側70名に表2の中国語訳の調査票(表2参照)を送り, そのうち, 実際に回答した人は50名で, 回答率は71%でした。回答した人の内訳は次の通りです。都市部に住む人は33名で, 農村部に住む人が17名でした。なお, 都市部の人では男性が17名で, 女性は16名でした。農村部の人では全て女性でした。

### 2) 調査手続き

中国語に翻訳した「日中国際結婚に関する実態調査」と題する調査票を作成し, 依頼状を添えて対象者に配布した。具体的な配布方法は, ①調査協力者である中国人による直接的な手渡し, ②調査協力者である友人を介しての間接的な手渡し, ③東京にある中国新聞の記者に頼って, 記者が調査対象者に郵送する3通りだった。最初に日本語で作成された調査票は, “back translation”の技法<sup>9)</sup>を用いて, 中国語に翻訳された。

### 3) 調査内容

#### (1) 日中国際結婚生活の満足度

調査対象者の日中国際結婚生活の満足度尺度は, ①人間関係尺度, ②対人交流尺度, ③経済尺度, ④文化体験尺度, ⑤言語尺度の5つの尺度が使用された。具体的な尺度項目は, 表2のIIに示した通りである。各尺度項目

は, 5件法「1. 非常に満足している<1点>, 2. 満足している<2点>, 3. どちらとも言えない<3点>, 4. あまり満足していない<4点>, 5. 全く満足していない<5点>」で質問した。低得点であるほど満足度が高いことを示す。この満足尺度は, 岡・深田・周(1996)の在日中国留学生の留学目的尺度を参考にして作成した<sup>5)</sup>。

#### (2) 日中国際結婚生活への適応度

調査対象者の日中国際結婚生活への適応尺度は, ①人間関係尺度, ②異文化適応尺度, ③心身健康・情緒尺度, ④ストレス尺度の4つの尺度について, 合計27尺度項目で質問した。具体的な尺度項目は, 表2のIIIに示した通りである。各尺度項目は, 5件法「1. よくあてはまる<1点>, 2. 少しあてはまる<2点>, 3. どちらとも言えない<3点>, 4. あまりあてはまらない<4点>, 5. 全くあてはまらない<5点>」で質問した。高得点であるほど適応度が高いことを示す。この適応尺度は, 上原(1988)の在日留学生適応尺度を参考にして作成した<sup>9)</sup>。

#### (3) サポートの必要度

この尺度は必要とするサポートを, サポートの領域(人間関係, 情緒, 生活環境・文化風俗の3領域)とサポートのタイプ(愛情的サポート, 物質的サポート, 心理的サポート, 指導的サポート, 情動的サポートの5タイプ)に基づく13尺度項目とした。具体的な尺度項目は, 表2のIVに示した通りである。各尺度項目は, 5件法「1. 非常にほしい<1点>, 2. ある程度ほしい<2点>, 3. どちらとも言えない<3点>, 4. あまりほしくない<4点>, 5. 全くほしくない<5点>」で質問した。低得点であるほどサポートの必要度が高いことを示す。この尺度は, 周・岡・深田(1995)のソーシャル・サポート尺度を参考にして作成した<sup>7)</sup>。

#### 4) 統計学的解析方法

居住地(都市・農村)・性別(男・女)を独立変数とし, それぞれの満足度尺度, 適応尺度, サポート尺度を従属変数とする1要因分散分析(ANOVA)を実施した。

表 2. 今回使用した日本語の調査票

**日中国際結婚に関する実態調査**

この調査は、日本に在籍する日中国際結婚の中国人側の皆さんの国際結婚生活の実態についてお聞きするものです。皆さんに回答していただいた結果は、今後の日中国際結婚の中国人に活用したいと思えます。また、将来的に日中国際結婚の中国人の結婚生活の改善にも役立てたいと思えますので、どうかこの調査にご協力下さい。

なお、調査の結果はコンピューターで、統計的に処理し、決して個人的に迷惑がかかるような事はありませんので、率直なご意見をお聞かせ下さい。

**I. 以下の質問で、当てはまる番号に○をつけて答えて下さい。**

性別：            1. 男        2. 女  
 現在居住地：    1. 都市     2. 農村

**II. これから、あなたの日中国際結婚生活の満足度をお聞きします。**  
 現時点での結婚生活の満足度に、どのくらい満足していますか。5段階のうちで、あてはまるところに○をつけて答えて下さい。

		非常 満 足 し て い る	満 足 し て い る	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り 満 足 し て い な い	全 く 満 足 し て い な い
1. 国際結婚生活の人間関係について .....						
夫婦関係のこと						
夫(妻)の家族との関係のこと						
子供との関係のこと						
いろいろな人と付き合うこと						
2. 国際結婚生活の交流について .....						
夫(妻)との交流を深めること						
夫(妻)の家族との交流を深めること						
子供との交流を深めること						
いろいろな人と付き合うこと						
3. 国際結婚生活の経済について .....						
日本の物価						
日常生活費						
子供の教育費						
家賃						
4. 国際結婚生活の文化経験について .....						
日本の文化を体験すること						
日本に関する知識・理解を深めること						
日本の食べ物が口に合うこと						
5. 国際結婚生活の言語について .....						
相手の話しが良く分かること						
日本語で気軽に話せること						
日本の新聞、雑誌を読めること						
日本語で文章を気軽に書けること						

表2. 続き

Ⅲ. 次は、あなたの日中国際結婚生活への適応度をお聞きします。

日本に来てから、以下のような事を経験したり感じたりしたことがどのくらいありますか。5段階のうちで、あてはまるところに○をつけて答えて下さい。

	よくあてはまる	少しあてはまる	どちらとも言えない	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
<b>1. 人間関係について</b>					
①最近夫婦関係がよくない.....					
②最近夫(妻)の家族との人間関係がよくない.....					
③子供との人間関係がよくない.....					
④地域住民との人間関係がよくない.....					
⑤日本人の友達との人間関係がよくない.....					
⑥中国人の友達との人間関係がよくない.....					
<b>2. 異文化適応について</b>					
①日本社会に対する好意がない.....					
②日本人のあいさつや礼儀が分からなくて困ることがある.....					
③自分が外国人で目立つので自分の行動が制限されるように感じる.....					
④自分がまだ日本社会の特性をあまり理解できていない.....					
⑤自分がまだ日本人の特性をあまり理解できていない.....					
⑥日本語を学ぶことが難しい.....					
<b>3. 心身健康・情緒について</b>					
①最近寂しくなることがよくある.....					
②最近何となく不安になることがある.....					
③最近イライラしがちだ.....					
④最近憂鬱になりがちだ.....					
⑤最近疲れやすい.....					
⑥最近食欲があまりない.....					
⑦最近よく眠れない.....					
<b>4. ストレッサーについて</b>					
①幸せな結婚生活になれないことで悩んでいる.....					
②対人関係の問題で悩んでいる.....					
③人生の生きがいがないと感じて悩んでいる.....					
④理想の生活と現実の生活がよくあわないことで悩んでいる.....					
⑤自分の心理的、精神保健上のことで悩んでいる.....					
⑥自分の身体の状態のことで悩んでいる.....					
⑦日本の物価、家賃、生活費、子供の教育費が高くて悩んでいる.....					
⑧日本の生活に適応しないこと(文化、礼儀、食べ物、気候など)で悩んでいる.....					
<b>Ⅳ. また、サポートの必要度をお聞きします。</b>					
あなたたちは、周りの人々からのいろいろなサポートを必要としています。あなたは、周りの人々から、今どんなサポートをどのくらいほしいと思いますか。5段階のうちで、あてはまるところに○をつけて答えて下さい(周りの人々は夫(妻)、夫(妻)の家族、日本人の友達、中国人の友達、隣人を含む人々のことです)。					

表 2. 続き

	非常にほしい	ある程度ほしい	どちらとも言えない	あまりほしくない	全くほしくない
<b>1. 人間関係に関して</b>					
①愛情的な、または、友情的なサポートを……………					
②物質的な、または、労力的なサポートを……………					
③心理的な、または、感情的なサポートを……………					
④指導的な、または、助言的なサポートを……………					
⑤情報的な、または、連絡的なサポートを……………					
<b>2. 情緒に関して</b>					
①愛情的な、または、友情的なサポートを……………					
②物質的な、または、労力的なサポートを……………					
③心理的な、または、感情的なサポートを……………					
④指導的な、または、助言的なサポートを……………					
<b>3. 生活環境・文化風俗に関して</b>					
①物質的な、または、労力的なサポートを……………					
②心理的な、または、感情的なサポートを……………					
③指導的な、または、助言的なサポートを……………					
④情報的な、または、連絡的なサポートを……………					
記入漏れがないかどうか、もう一度確認して下さい。ご協力ありがとうございました。					

表 3. 満足度領域別得点の平均と標準偏差，及び居住地・性別間の比較

領域 (N=50)	居住地・性別	都市・男性 (17)	都市・女性 (16)	農村・女性 (17)
人間関係の領域	2.12(±1.15)	1.59(±0.80)	1.94(±0.93)	2.82(±1.33)
交流の領域	2.50(±1.33)	1.76(±0.75)	2.13(±1.02)	3.59(±1.37)
経済の領域	3.42(±1.18)	3.41(±1.18)	3.06(±1.18)	3.76(±1.15)
文化体験の領域	2.42(±1.25)	1.71(±0.77)	2.31(±1.01)	3.24(±1.39)
言語の領域	2.66(±1.41)	1.71(±0.47)	2.56(±1.26)	3.71(±1.49)
満足度総得点	2.62(±1.33)	2.04(±1.06)	2.40(±1.13)	3.42(±1.37)

注) 低得点であるほど満足度が高い。( )の中の値は標準偏差を示す。

主効果が認められた尺度に関しては、さらに Tukey 法による多重比較を行った。

**調査結果**

(1) 日中国際結婚生活の満足度

今回調査した満足度について、領域別得点の平均と標準偏差，及び居住地・性別間の統計得点は、表 3 に示した。

満足度尺度について、(都市・男性)，(都市・女性) と (農村・女性) の 3 群を 1 要因分散分析した結果，人間関係領域満足度尺度 (F (2,47) =6.273, p <0.01)，

交流領域満足度尺度 (F (2,47) =13.509, p <0.001)，文化体験領域満足度尺度 (F (2,47) =8.454, p <0.01)，言語領域満足度尺度 (F (2,47) =12.767, p <0.001) の 4 領域において居住地・性別による主効果が認められた。しかし、経済領域満足度尺度については、居住地・性別による有意差は認められなかった。

さらに、Tukey 法による多重比較を行った結果，人間関係領域，交流領域，文化体験領域と言語領域の 4 領域満足度尺度では、(都市・男性) のほうが (農村・女性) より有意に満足している (p <0.05)，(都市・女性) のほうが (農村・女性) より有意に満足していた (p <0.05)。また (都市・男性) のほうが (都市・女性) より有意に

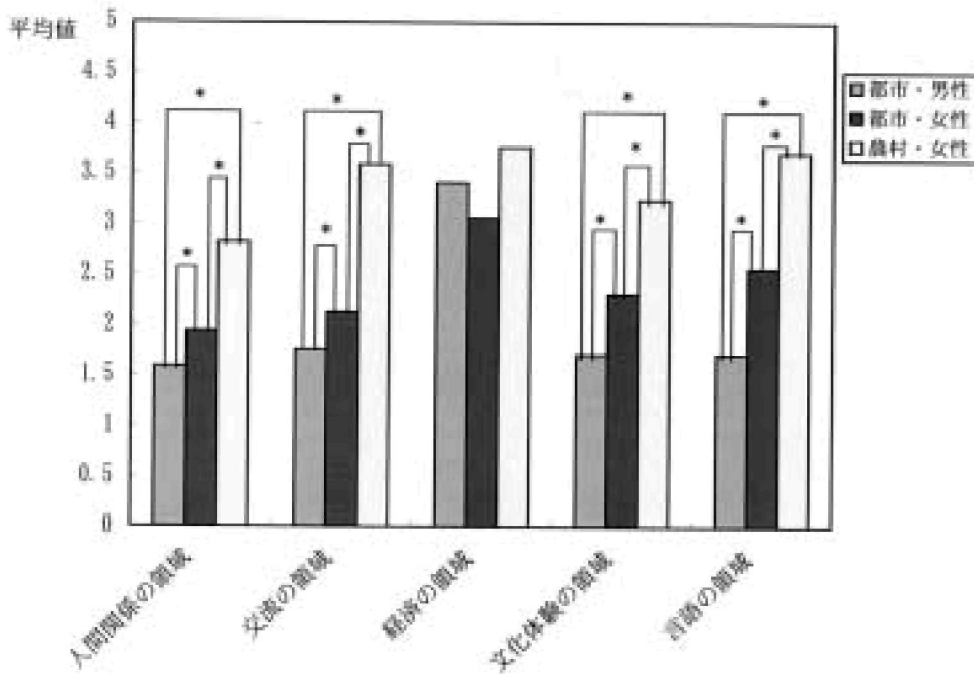


図1 日中国際結婚生活の満足度（居住地・性別の3群比較）  
注）低得点であるほど満足度が高い。\*は有意差があることを示す（ $p < 0.05$ ）。

表4. 適応度領域別得点の平均と標準偏差，及び居住地・性別間の比較

領域 (N=50)	居住地・性別	都市・男性 (17)	都市・女性 (16)	農村・女性 (17)
人間関係の領域	3.41(±1.61)	4.13(±1.38)	3.78(±1.45)	2.33(±1.36)
異文化適応の領域	3.02(±1.45)	3.48(±1.39)	3.47(±1.21)	2.15(±1.30)
心身健康・情緒の領域	3.58(±1.50)	4.34(±1.30)	3.67(±1.24)	2.74(±1.50)
ストレスの領域	3.49(±1.49)	4.01(±1.42)	3.70(±1.38)	2.76(±1.36)
適応度総得点	3.38(±1.53)	3.99(±1.40)	3.66(±1.33)	2.39(±1.41)

注）高得点であるほど適応度が高い。（ ）の中の値は標準偏差を示す。

満足していた ( $p < 0.05$ ) (図1参照)。

(2) 日中国際結婚生活への適応度

今回調査した適応度について，領域別得点の平均と標準偏差，及び居住地・性別間の統計得点は，表4に示した。

適応尺度について，(都市・男性)，(都市・女性)と(農村・女性)の3群を1要因分散分析した結果，人間関係領域適応尺度 ( $F(2, 47) = 18.311, p < 0.001$ )，異文化適応領域適応尺度 ( $F(2, 47) = 11.009, p < 0.001$ )，心身健康・情緒領域適応尺度 ( $F(2, 47) = 10.303, p < 0.001$ )，ストレス領域適応尺度 ( $F(2, 47) = 9.578, p < 0.001$ )の全ての領域において居住地・性別による主効果が認められた。

さらに，Tukey法による多重比較を行った結果，人間

関係領域，心身健康・情緒領域とストレス領域の3領域適応尺度では，(都市・男性)のほうが(農村・女性)より有意に適応している ( $p < 0.05$ )，(都市・女性)のほうが(農村・女性)より有意に適応していた ( $p < 0.05$ )。また(都市・男性)のほうが(都市・女性)より有意に適応していた ( $p < 0.05$ )。次に，異文化適応領域適応尺度の多重比較を行った結果は，(都市・男性)のほうが(農村・女性)より有意に適応している ( $p < 0.05$ )，(都市・女性)のほうが(農村・女性)より有意に適応していた ( $p < 0.05$ ) (図2参照)。

(3) サポートの必要度

今回調査したサポートの必要度について，領域別得点の平均と標準偏差，及び居住地・性別間の統計得点は，表5に示した。

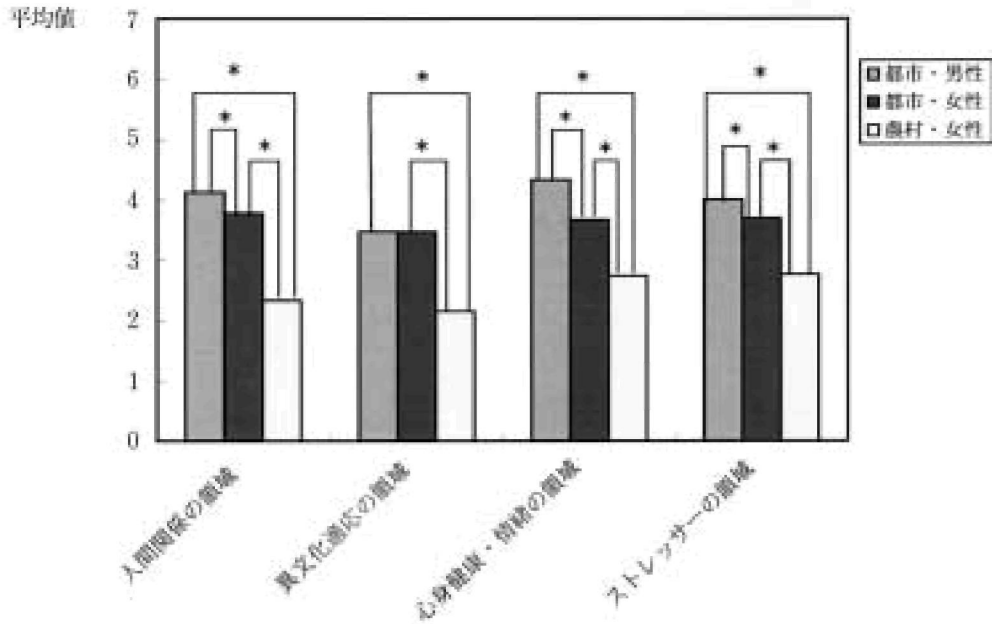


図2 日中国際結婚生活への適応度 (居住地・性別の3群比較)  
注) 高得点であるほど適応度が高い。\*は有意差があることを示す (p < 0.05)。

表5. サポートの必要度領域別得点の平均と標準偏差, 及び居住地・性別間の比較

領域 (N=50)	居住地・性別	都市・男性 (17)	都市・女性 (16)	農村・女性 (17)
人間関係の領域	1.76 (±0.68)	1.75 (±0.66)	1.87 (±0.66)	1.67 (±0.71)
情緒の領域	1.72 (±0.57)	1.63 (±0.49)	1.89 (±0.65)	1.65 (±0.54)
生活環境・文化風俗の領域	1.80 (±0.76)	1.59 (±0.58)	2.16 (±0.98)	1.66 (±0.54)
サポートの必要度総得点	1.76 (±0.69)	1.65 (±0.59)	1.97 (±0.77)	1.66 (±0.60)

注) 低得点であるほどサポートの必要度が高い。( )の中の値は標準偏差を示す。

サポート尺度について、(都市・男性)、(都市・女性)と(農村・女性)の3群を1要因分散分析した結果、生活環境・文化風俗領域サポート尺度において居住地・性別による主効果が認められた (F (2,47) = 4.515, p < 0.05)。しかし、人間関係領域サポート尺度、情緒領域サポート尺度の2領域において居住地・性別による有意差は認められなかった。

そこで、生活環境・文化風俗領域サポート尺度の多重比較を行った結果は、(農村・女性)のほうが(都市・女性)より有意にサポートを必要としていて (p < 0.05)、(都市・男性)のほうが(都市・女性)より有意にサポートを必要としていた (p < 0.05) (図3参照)。

(4) 日中国際結婚生活の満足度と適応度との関係

満足度の総得点と適応度の総得点間の関係を分析するために、両得点間の相関関係を検討したところ、有意な

負の相関関係 (r = -0.855, P < 0.01) があった (表6参照)。

(5) 満足度とサポートの必要度との関係

満足度の総得点とサポートの必要度の総得点間の関係を分析するために、両得点間の相関関係を検討したところ、有意な相関関係は得られなかった (r = -0.170, P > 0.10)。

(6) 適応度とサポートの必要度との関係

適応度の総得点とサポートの必要度の総得点間の関係を分析するために、両得点間の相関関係を検討したところ、有意な相関関係は得られなかった (r = 0.074, P > 0.10)。

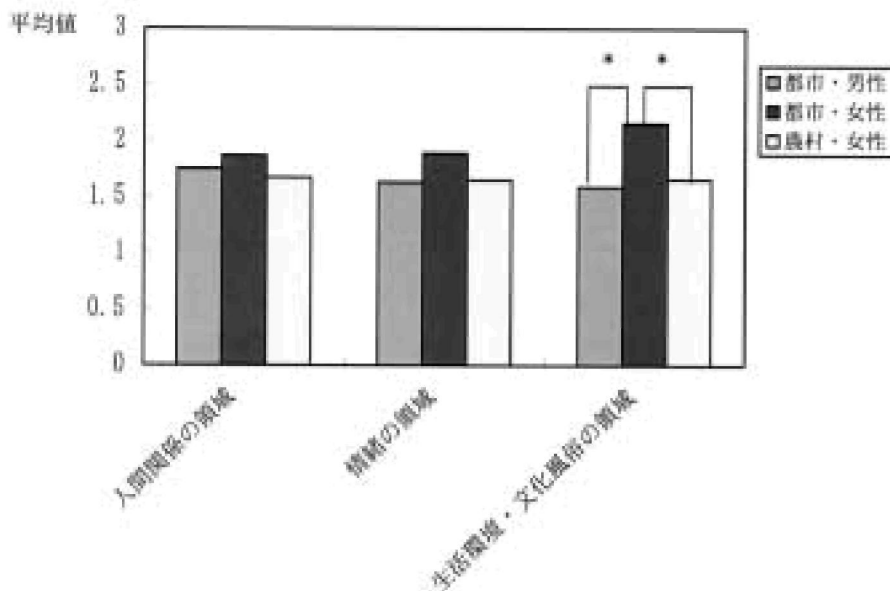


図3 サポートの必要度（居住地・性別の3群比較）

注) 低得点であるほどサポートの必要度が高い。\*は有意差があることを示す (p<0.05)。

表6. 日中国際結婚生活の満足度と適応度との関係

満足度 \ 適応度	総得点	人間関係の領域	適応の領域	心身健康・情緒の領域	ストレスの領域
総得点	-0.855**	-0.809**	-0.801**	-0.692**	-0.807**
人間関係の領域	-0.859**	-0.810**	-0.710**	-0.788**	-0.808**
交流の領域	-0.824**	-0.792**	-0.734**	-0.694**	-0.775**
経済の領域	-0.486**	-0.443**	-0.579**	-0.284**	-0.474**
文化体験の領域	-0.722**	-0.672**	-0.650**	-0.610**	-0.694**
言語の領域	-0.697**	-0.674**	-0.686**	-0.534**	-0.640**

注) \*\* p<0.01(満足度と適応度との相関関係の有意差)。

### 考察

本研究は、日中国際結婚における中国人側を対象として、彼らの国際結婚生活の満足度、適応度及びサポートの必要度を調査することを目的とした。本研究では、一般的な結果は予想よりも良い結果が示された。

満足度に関して、検討した結果、人間関係の領域、交流の領域、文化体験の領域、言語の領域の4領域満足度では、都市部に住む女性のほうが農村部に住む女性より満足度が高いことが分かった。また、都市部では男性のほうが女性より満足度が高いことも分かった。この結果より、居住地・性別が満足度に影響することが示された。経済の領域での満足度が低いことは、日本の物価高、日常生活費、子供の教育費及び家賃などの経済的苦境に原因があると思われる。

そして、適応度に関して、検討した結果、全ての領域適応度では、都市部に住む女性のほうが農村部に住む女性より適応度が高いことが分かった。また、人間関係の領域、心身健康・情緒の領域、ストレスの領域の3領域適応度では、都市部では男性のほうが女性より適応度が高いことも分かった。この結果より、居住地・性別が適応度に影響することが示された。

また、サポートに関して、検討した結果、生活環境・文化風俗領域サポートの必要度では、農村部に住む女性のほうが都市部に住む女性よりサポートの必要度が高いことが分かった。また、都市部では男性のほうが女性よりサポートの必要度が高いことも分かった。この結果より、生活環境・文化風俗領域サポートの必要度では、居住地・性別がサポートの必要度に影響することが示された。

都市部と農村部の間にこのような違いが生じる要因と



して、都市部ではいろいろな人と付き合うチャンスがより多いこと、日本語の勉強のチャンスにより恵まれていること、サポート体制がより整っていること、仕事のチャンスにより恵まれることなどが挙げられる。以上のことより、都市部で生活している人のほうが農村部で生活している人より満足度が高く、適応度が高く、サポートの必要度が低い結果をもたらしていると思われる。

男性と女性の間の違いについては、これまでの日中国際結婚のストレスに関する研究では<sup>6)</sup>、そもそも男性が女性よりストレスが低いことが言われている。さらに、日本の男性優位社会が中国人男性にも影響を与えていると思われる。また、女性は男性に比べ低収入であることなどから、男性が女性よりも満足度と適応度が高いと思われる。それにもかかわらず、男性が女性よりサポートを必要としている理由としては、男性が一生懸命働いて家族を養うという考えが社会全体にあることや、男性が女性よりも一般的に仕事量が多すぎるなどから、男性が女性より日中国際結婚生活の満足度と適応度が高く、サポートの必要度も高いと思われる。

本研究ではさらに、総得点を用いて、日中国際結婚生活の満足度と適応度との関係を全体的に検討した結果、満足度と適応度との間には有意な相関関係が存在し、当初の予想通り、満足度が適応に結びつくことが証明された。しかし、サポートの必要度の総得点と満足度の総得点の間には、全く何の関係もみられず、有意な関係は見出せなかった。そして、サポートの必要度の総得点と適応度の総得点の間にも全く有意な関係は見出せなかった。以上のように、当初の予想に反して、サポートの必要度と適応度あるいは満足度との間に有意な相関関係を発見することはできなかった。

ところで、日中国際結婚生活には様々な問題が生じており、彼らの日本社会への適応問題、物価高の日本社会では経済的に生活の維持が困難なこと、夫婦関係、姑嫁関係、育児などの個人的な問題で、困惑している人が多くいると思われる。彼らが早く日中国際結婚生活に適応できるよう、有効な支援をしていくことも今回の課題であったことから、本研究の結果を今後の日中国際結婚の中国人に活用し、将来的に日中国際結婚の中国人結婚生活の改善に役立てたいと思う。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたりご指導下さいました指導教官の平川忠敏教授ならびに神経内科医の山田博久先生に心から感謝します。また、調査の実施にあたっては、多くの知らない人からご協力をいただきました。ここに、多くの皆様方のご協力、ご好意に対し、心より感謝の意を

表します。

## 文 献

- 1) 中国新聞文化部 (編). 幸せ結婚の条件. 文芸春秋出版社2002:2.
- 2) 中国新聞文化部 (編). 幸せ結婚の条件. 文芸春秋出版社2002:25.
- 3) 厚生労働省. 夫妻の国籍別にみた婚姻件数の年次推移. 人口動態統計調査2002.
- 4) 厚生労働省. 夫妻の国籍別にみた離婚件数の年次推移. 人口動態統計調査2002.
- 5) 岡益巳, 深田博己, 周玉慧. 中国人私費留学生の留学目的及び適応. 岡山大学経済学会雑誌1996;27(4):25-49.
- 6) 王寧霞. 日中国際結婚: ストレッサーの研究及び臨床心理的援助. 第6回日本コミュニティ心理学会発表論文集2003:14-15.
- 7) 周玉慧, 岡益巳, 深田博己. 中国人私費留学生のソーシャル・サポート. 岡山大学経済学会雑誌1995;27(3):29-59.
- 8) 竹下修子. 国際結婚の社会学. 学文社2000:10.
- 9) 上原麻子. 留学生の異文化適応. 広島大学教育学部 (編) 言語習得及び異文化適応の理論的・実践的研究1988:111-124.